

第6学年社会科学学習指導案

日 時 平成21年9月29日(火) 5校時
場 所 奥州市立水沢南小学校 6年3組教室
児 童 6年3組 男21名, 女17名, 計38名
指導者 6年3組担任 関 戸 裕

1 単元(中単元)名 「3 新しい日本の国づくりを見つめよう」 1 新しい時代の幕開け

2 単元(中単元)の目標

明治政府の目指した国づくりと政策の内容との関連をつかみ, 人々の暮らしの変化や政治への願いにも目を向けながら, 憲法制定, 国会開設までの過程をとらえることができる。

3 単元(中単元)について

(1) 教材について

本単元は, 黒船来航をきっかけに開国した日本が, 欧米の政策や文化を取り入れて近代化を進める中で, 産業の発展や憲法の制定, 国会の開設などをとげていく様子を学ぶ単元である。

近代日本の歴史は, 世界の歴史の動きと密接につながっている。黒船の来航をきっかけとして, 200年以上も続いた幕府が倒れ, 大きく社会が変化する。明治政府のもと近代国家の体制が整い, 国際社会の中での地位が向上していった時代であるとともに, その過程で, 日清・日露戦争に象徴されるように後の時代に続く「戦争の時代」の端緒となっていく時代でもある。

明治政府の目指した国づくりの方向性と諸外国との関係, 人々の願いなどを関連づけて, 社会的事象を多面的に考えさせていきたい単元である。

(2) 児童について

児童の実態として, 4月当初から「歴史」という新しい分野に期待感をもち, 興味・関心をもって意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い。その一方, 算数のように前学年からの知識・理解面での積み上げがないことから, 覚えることが多くて難しいという不安を抱いていた児童も数名いた。

これまでの単元テストの結果から考察すると, 平均正答率がどの単元でも90%を超えており, 基礎的な内容をよく身につけている児童が多いと考えられる。観点別にみると, 「社会的事象についての知識・理解」で92.5%, 「社会的な思考・判断」で91.2%, 「観察・資料活用の技能・表現」で89.2%となっており, 資料活用が少し劣るものの, 学級の児童には全体的に基礎的な力がついていると考えられる。これは, 予習的な家庭学習で, 学習内容に目を通してから授業に取り組んでいることや, 単元の最後にプリントによる復習を行っている効果と考えている。

しかし授業での様子を見てみると, 課題に対する予想を, 根拠を明確にして立てることができない児童や, 社会的事象の関係を記述したり, 説明したりすることが苦手な児童も多い状況である。これは, 一つ一つの事柄については理解しているものの, 時代の流れなどに関連させてつながりを考えられなかったり, 記述や説明の根拠となる資料を活用することができなかつたりするためと考えられる。

(3) 指導について

本単元で扱う近代の歴史は, 政治や経済の状況, 国際関係, 社会の変化と, そのどれをとっても複雑で急激な展開をみせるので, 児童にとって理解が困難になることが予想される。児童の実態から考えて, 知識の習得に偏らないように配慮したい。歴史的な事象を, 政府のねらい, 外国との関係, 人々の願いなどから多面的にとらえ, そのつながりを考えさせていきたい。

そのため, 本時の授業では次のような展開を構想している。まず, 政府の政策や歴史的な人物, 国名や地名をキーワードとして焦点化し, 教科書や資料集の資料を活用して調べさせていく。その後, 調べたことを発表させ, 短い言葉でまとめていく。そして, キーワードの関係を考えて矢印でつないだり, 線で囲んだりして全体像を整理していく。その際, ペア学習を取り入れ, 児童が自分の考えを, ノートを指し示しながら説明する場面を設定する。どの児童にも, 自分の考えを伝え合う言語活動の場面を設定することで, 説明力や思考力を養うことをねらいとしている。このような学習の過程の中で, キーワードに関係する資料を選択して読み取る力や, 歴史的な事象を多面的にとらえて考察する力を養いたいと考えている。(別紙資料参照)

また, 予習的な家庭学習を取り入れることにより, 導入にかかる時間を短くし, 調べ学習や考察の時間を確保したいと考えている。教師が意図的に設定した問題について家庭で取り組むことにより, 授業内容のたいたいをつかんでくることを期待している。授業では, 児童が自分で学習してきた内容をもとに, 教師や友達とともに考えながら知識・理解を再構成し, 社会的な事象を多面的に正しく理解し考える力を伸ばしたい。(別紙資料参照)

4 単元（中単元）の評価規準

関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	知識・理解
黒船の来航が社会にあたえた影響について考え、世の中がどのようにかわっていくのかに興味をもつ。(発言・ノート)	明治政府が行った政策の内容と、それが何を目ざしていたのかを結びつけて考えることができる。(発言・ノート・テスト)	明治時代と江戸時代の政策や暮らしの様子を比較して、何がどのように変化したのかをつかむことができる。(発言・ノート)	明治政府が進めた諸改革の内容とそのねらいや影響を、具体的に理解することができる。(発言・ノート・テスト)

5 単元（中単元）の指導計画・評価計画

段階	目標	時	評価規準	具体的評価規準		支援を要する子への支援(C)
				十分満足(A)	概ね満足(B)	
つかむ	黒船の来航とそれに対する幕府の対応や人々の動きを調べ、開国、諸外国との貿易が始まっていく流れをつかみ、世の中の変化に興味をもつ。 (関心・意欲・態度)	1	黒船の来航が社会にあたえた影響について考え、世の中がどのようにかわっていくのかに興味をもつことができる。(発言・ノート)	黒船来航が社会にあたえた影響を、幕府や諸藩、民衆などさまざまな立場から考え、世の中がどのように変わっていくかに興味をもつことができる。	黒船の来航が社会にあたえた影響について考え、世の中がどのようにかわっていくのかに興味をもつことができる。	江戸時代と現代の生活の変化を具体的に考えさせ、その中間としての時代があることに気づかせる。
			幕府が倒れた理由を、開国による人々の暮らしの変化や、諸藩の動きなどから考えることができる。 (発言・ノート)	幕府が倒れた理由を、開国による人々の暮らしの変化や、諸藩の動きなどから多面的にとらえ、関連づけて考えることができる。	幕府が倒れた理由を、開国による人々の暮らしの変化や、諸藩の動きなどから考えることができる。	不平等条約の内容を想起させ、米の値上がりなどの具体的資料から人々の暮らしの変化と倒幕への流れを考えさせる。
深める	開国による人々の暮らしの変化や、倒幕によって新しい政治を旨とする動きの強まりを調べ、国内外からの力によって、武士の世の中が終わっていく経緯をとらえることができる。 (社会的思考・判断) (知識・理解)	2	幕府が倒れた理由を、開国の影響や人々の暮らしの変化、諸藩の動きなどを関連づけて理解することができる。 (発言・ノート)	幕府が倒れた理由を多面的にとらえ、その経緯や要員を正しく理解することができる。	幕府が倒れた理由を、開国の影響や人々の暮らしの変化、諸藩の動きなどを関連づけて理解することができる。	ノートやキーワードのつながり一つ一つを確認し、順序立てて理解させる。
	明治政府が行った諸改革の内容を調べ、政府がどのような国づくりを目指したのかを考え、その特色をとらえ、理解することができる。 (知識・理解)		3	明治政府が進めた諸改革の内容とそのねらいや影響を具体的に理解することができる。 (発言・ノート・テスト)	明治政府が進めた諸改革の内容とそのねらいや影響を具体的に理解し、それらを統合して、政府が目ざした国づくりの方向をまとめることができる。	明治政府が進めた諸改革の内容とそのねらいや影響を、具体的に理解することができる。
	明治政府が、産業を盛んにして国を富ませ、近代的な軍隊を組織して、西洋諸国に追いつけるような国づくりを目指したことをとらえることができる。 (社会的な思考・判断) (知識・理解)	4		明治政府が行った政策の内容と、それが何を目ざしていたのかを結びつけて考えることができる。 (発言・ノート・テスト)	明治政府が行った政策の内容と目的を結びつけて考え、諸政策を統合して、政府が目ざした不平等条約改正を説明することができる。	明治政府が行った政策の内容と、それが何を目ざしていたのかを結びつけて考えることができる。
	まちの様子や人々の暮らし、学校教育の変化を中心として、新しい時代になって西洋風のものや考え方が多く取り入れられたことをつかむことができる。 (観察・資料活用の技能・表現)		5	明治時代と江戸時代の暮らしの様子を比較して、何がどのように変化したのかをつかむことができる。 (発言・ノート)	資料をもとに、明治時代と江戸時代の暮らしの様子を比較して、何がどのように変化したのかをつかみ、政府の政策との関連を考えることができる。	資料をもとに、明治時代と江戸時代の暮らしの様子を比較して、何がどのように変化したのかをつかむことができる。

	<p>西南戦争や自由民権運動の高まりについて調べ、人々が新しい政治に対してもっていた願いについて考えることができる。</p> <p>(社会的な思考・判断)</p>	6	<p>自由民権運動が高まった過程を理解し、国民の願いについて考えることができる。</p> <p>(発言・ノート)</p>	<p>西南戦争以降、自由民権運動が高まった過程を理解し、国民の願いについて、これまでの学習と関連させて考えることができる。</p>	<p>自由民権運動が高まった過程を理解し、国民の願いについて考えることができる。</p>	<p>黒船来航による不平等条約や明治政府の方針などを想起させ、人々の願いを中心に考えさせる。</p>
深める	<p>大日本帝国憲法制定までの過程を調べ、明治政府が目ざした政治のあり方がどのような形で完成していったのかについてとらえることができる。</p> <p>(社会的な思考・判断) (知識・理解)</p>	7 (本時)	<p>憲法制定や国会開設を関連づけて、明治政府が目ざした国家の形を考えることができる。</p> <p>(発言・ノート・テスト)</p>	<p>憲法制定までの過程や国会開設の目的を、これまでの学習と関連させて考え、明治政府が目ざした国家の形をまとめることができる。</p>	<p>憲法制定や国会開設を関連づけて、明治政府が目ざした国家の形を考えることができる。</p>	<p>「西洋においつけ」の学習を想起させ、政府が目ざしたものと、憲法や国会との関連に気づかせる。</p>
			<p>大日本帝国憲法の特徴をつかみ、明治政府が目ざした政治のあり方とのつながりを理解している。</p> <p>(発言・ノート)</p>	<p>大日本帝国憲法の特徴をつかみ、教育勅語や国会開設と関連づけて、明治政府が目ざした政治のあり方とのつながりを理解している。</p>	<p>大日本帝国憲法の特徴をつかみ、明治政府が目ざした政治のあり方とのつながりを理解している。</p>	<p>大日本帝国憲法の条文を一つずつ確認し、天皇という言葉に着目させ、天皇中心に書かれていることに気づかせる。</p>
まとめる	<p>江戸時代と明治時代を比べ、政府の政策の違いや、人々の暮らしの変化について新聞にまとめることができる。</p> <p>(観察・資料活用の技能・表現)</p>	8	<p>江戸時代と明治時代を比べ、政府の政策の違いや、人々の暮らしの変化について新聞にまとめることができる。</p> <p>(新聞)</p>	<p>江戸時代と明治時代を比べ、政府の政策の違いや、人々の暮らしの変化について、相互を関連させながら新聞にまとめることができる。</p>	<p>江戸時代と明治時代を比べ、政府の政策の違いや、人々の暮らしの変化について新聞にまとめることができる。</p>	<p>文化や人々の暮らしの変化など、書きやすい内容から新聞にまとめさせる。その際、政策との関連にも気づかせる。</p>

6 本時の指導

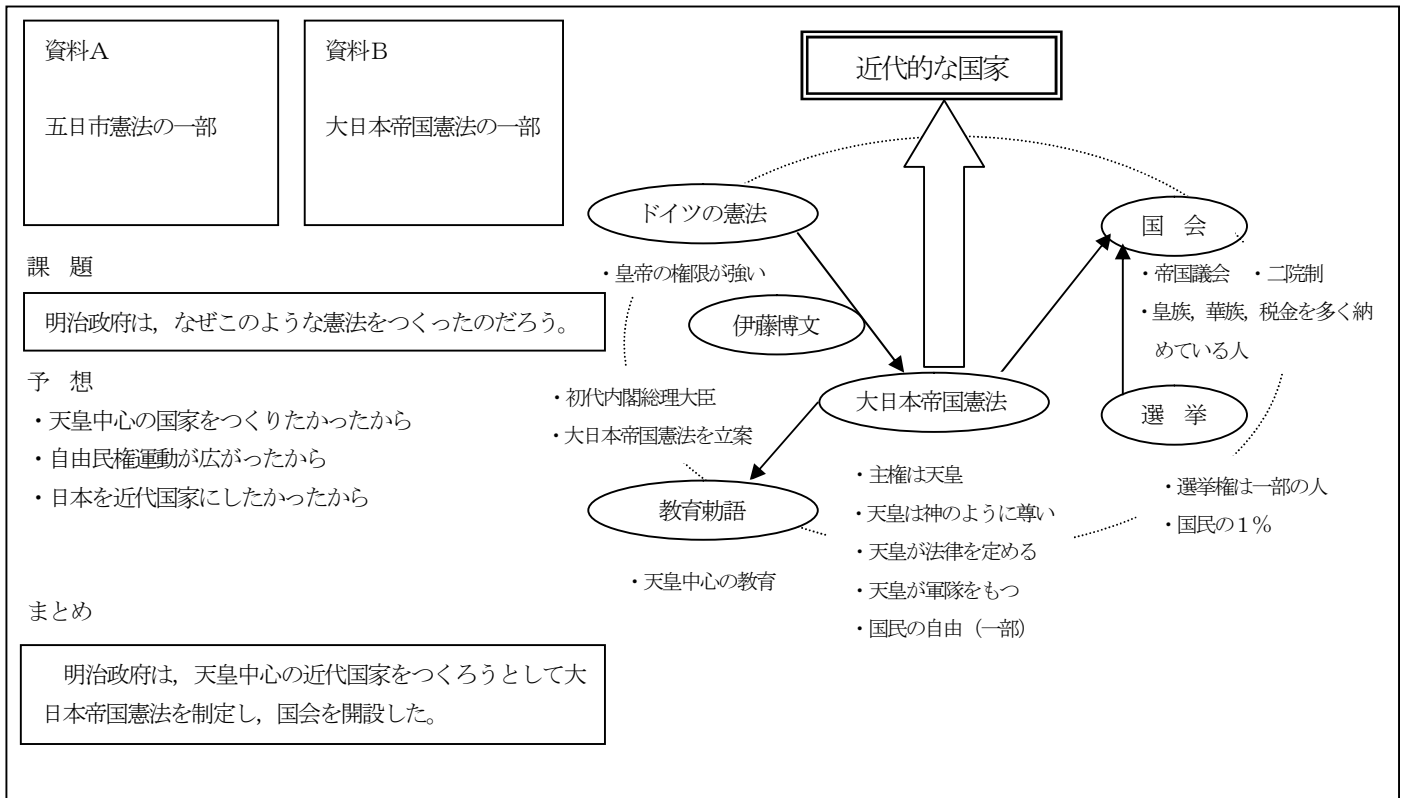
(1) 目標

大日本帝国憲法制定までの過程を調べ、明治政府が目ざした政治のあり方がどのような形で完成していったのかについてとらえることができる。

(2) 展開

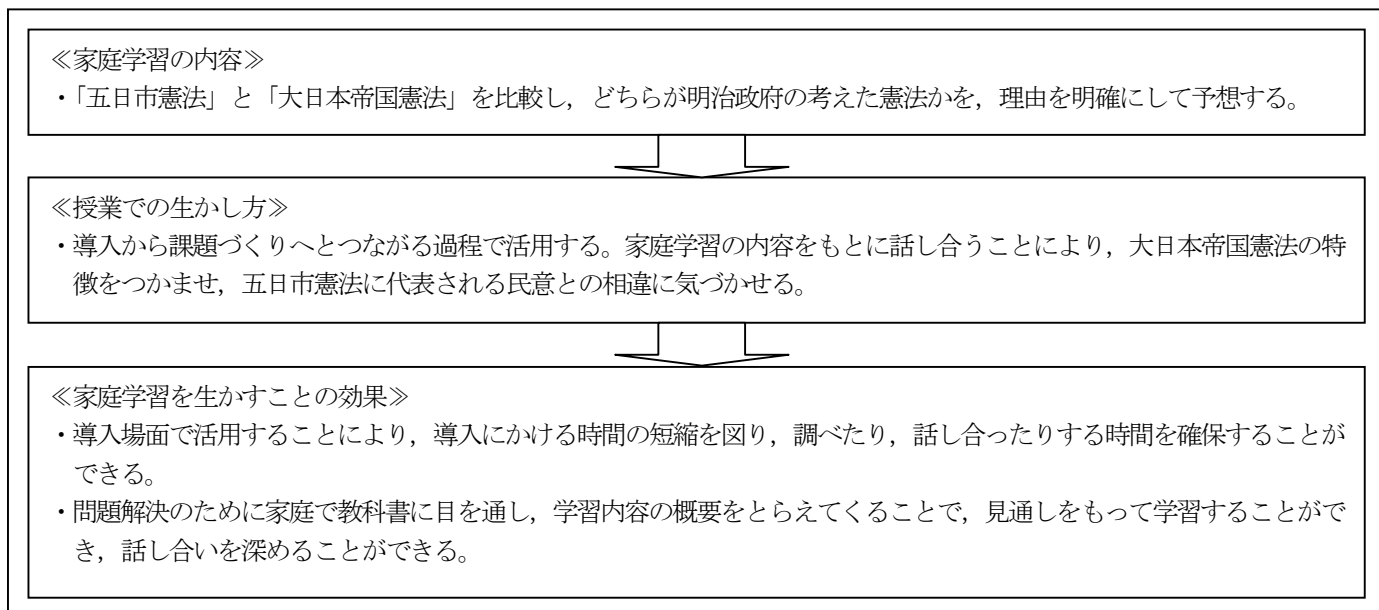
継	・学習活動 ○児童の反応	○留意点 ◇支援 ・準備 ☆評価
つかむ 7分	<p>1 問題を発見する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習をもとに、二つの憲法について話し合う。 ○Aの資料は国民の草案だと思う。理由は・・・。 ○Bの資料が政府の草案だと思う。理由は・・・。 <p>2 課題をつかむ</p> <p>明治政府は、なぜこのような憲法をつくったのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料A「五市市憲法の一部」 ・資料B「大日本帝国憲法の一部」 ○予想の理由を明確にし、大日本帝国憲法の特徴を大まかにつかませる。 <p>授業改善のポイント① 「家庭学習を生かした導入」 国民と政府の憲法草案の比較から、大日本帝国憲法の特徴をつかむ。</p> <p>○大日本帝国憲法の特徴と、国民草案の特徴から明治政府がこのような憲法を制定した背景や目的について追究する課題をもたせる。</p>
調べる 13分	<p>3 課題に対して予想を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○天皇中心の国家をつくりたかったから。 ○自由民権運動が全国に広まったから。 <p>4 調べ学習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書で調べ、課題にせまるキーワードを見つける。 ・キーワードをもとに、教科書の本文や資料から調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇前時までの学習や、家庭学習を生かして予想するように助言する。 ○予想の段階では、根拠があればどんなものでも認めていく。 ○家庭学習で引いてきたサイドラインを手がかりに、課題にせまるキーワードを見つけさせる。 ○児童から出されたキーワードを板書し、ノートづくりの目安にさせる。 ◇資料を選択できない児童を集め、キーワードと本文や資料を対応させて、調べ学習の見通しをもたせる。
深める 20分	<p>5 話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードについて調べたことを発表する。 ・キーワードの関連性について考える。(ペア学習) ・全体で話し合い、キーワードをつなぎ、社会的事象の全体像をとらえる。 <p>6 課題についてまとめる</p> <p>明治政府は、天皇中心の近代国家をつくらうとして大日本帝国憲法を制定し、国会を開設した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書をもとに、調べた事柄を再構成してまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が調べたことを整理して板書し、共通する言葉に色をつけるなどして関連性に気づきやすくする。 <p>授業改善のポイント② 「調べたことをつなぐ話し合い」 キーワードの関連性を考え、矢印でつないだり、線で囲んだりして社会的事象を多面的にとらえる。</p> <p>☆「大日本帝国憲法」「国会」「教育勅語」などのつながりを説明することができる。 (発言・ノート)</p> <p>◇考えられないペアには、板書をもとに同じような言葉からつながりを見つけさせる。</p> <p>☆憲法制定や国会開設を関連づけて、明治政府が目ざした国家の形を考えることができる。 (発言・ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キーワードを用いて児童の言葉でまとめさせるようにする。その際、政府のねらいである「天皇中心」「近代国家」を使えるように板書を工夫する。 ○大日本帝国憲法の条文や国会開設から、自由民権運動の成果が政治に表れていることにも気づかせる。
広げる 5分	<p>7 本時の学習内容をふりかえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通してわかったことや感じたことをまとめる。 <p>8 次時の内容を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の内容を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本国憲法の条文を紹介し、大日本帝国憲法との違いに気づかせ、現在の自分たちの暮らしとのつながりに気づかせる。 ○児童の「夏休みの研究」を生かし、明治政府の進む方向を予想させる。 ○次時につながる家庭学習について説明する。

7 板書計画



本時における授業のポイント

ポイント① 「家庭学習を生かした授業づくり」(導入場面での活用)



ポイント② 「資料活用能力の育成」(調べたことをつなぐ話し合い)

